

さくらの景観まちづくり賞 建築物部門



伝統を感じるリノベーションカフェ

「入母屋珈琲」

(上座・古民家再生 カフェ)



受賞理由

歴史的な木造住宅を外見はそのままに現代的なカフェとして再生することで周辺環境に調和した店舗とした点、またロードサイドという目にとまりやすい立地にあることでこの一帯の景観を先導する役割を担っている点が評価された。

佐倉市景観審議会からの講評

《特に優れているポイントなど》

・構造を変えず、また白と黒の伝統的な配色を生かしながらモダンなファサードを作り出している。また、それにより周辺の市街地とも違和感なく調和している。

- ・元々あった開口部(窓)を活かしそれらをさらに広げ、室内の様子も見えるようにしており入ってみたい気にさせる外観である。
- ・歴史的な木造建築を活かしたカフェへのリノベーション建築で、ユーカリが丘の近代的な開発住宅地に近接しているところにも佐倉市の歴史的に重層した田園景観があることをしのばせる。歴史的な建築物の活用による景観まちづくりとしての観点から評価は高い。集客上、駐車場が広くとられているのは致し方ないとして、今後さらに街並みに調和した外構づくりなど、さらに景観面での向上に対して、成田街道をリードする存在になることを期待したい。
- ・画一的なロードサイド型の飲食店等が立ち並ぶ国道沿いの環境にあって、当地に残る入母屋造りの古民家を活かし歴史的な暮らし、佇まいを今に伝えるリノベーションを行っている。店舗の外観ばかりでなく、インテリア、調度、外構、サイン、照明などが高い水準で総合的にデザインされている。
- ・成田街道沿い、ロードサイド型のチェーン店も並ぶ当該箇所存在した古民家を原位置保存し、新たな役割を付与することで、幹線道路沿いに入母屋造りの建物が存在する風景を保った点が評価できる。カフェという商業空間として利活用することで、地域資源の保全と経済性の両立が図られることが期待される。
- ・入母屋の重厚感ある建物と漢字及びアルファベットの看板が調和し、落ち着きのある建物で、この古民家を見つけただけでほっとする。
- ・建物敷地の駐車場奥に見えるドッグランの文字とその奥の板塀が古民家の佇まいを感じさせ、上品な景観を創出させている。
- ・入母屋珈琲でゆっくりとお茶を飲みながら読書したら、時間を忘れて一日があつという間に過ぎ去っていく感じである。
- ・古き建物外観を残しながら、改築して新しい活用を考えたという点ですばらしい。
- ・構えが立派ではあるが以前は普通にあった木造民家を奇をてらわず無理なく改修しているところに好感が持てる。また、本件のテーマではないが地域の空き家利用などの参考にもなるう。

《より良い景観に向けて》

- ・「人と家、人と人をつなぐ」のコンセプトが名実とも果たされるよう、ファサードのみでなく、来店者に当該古民家を契機に、現代的な都市の風景と田園風景の狭間で佐倉の魅力を感じられる空間として、多様な人々を受け入れるカフェ展開を期待したい。
- ・建物周囲の縁石やアスファルトなど、景観の縁取りとなるべき外構デザインが願わくば店舗の民家に馴染むものであれば、街並みに連鎖を与える存在になると思う。

さくらの景観まちづくり賞 建築物部門



城下町との色彩の調和を図る

「千葉銀行 佐倉支店」

(新町・店舗)



受賞理由

景観形成重点区域である新町通りに面した大型の建築物を、周囲の景観と調和したデザイン・色彩とした点は、新町地区のまちなみ形成に貢献した。また、行政・専門家と協働してこれらのデザイン・色彩を決定した点が評価された。

佐倉市景観審議会からの講評

《特に優れているポイントなど》

- ・新町の歴史的な町並みや色彩とも調和の取れたものとなったことは言うまでもないが、建物単体としてみても重厚で落ち着きのあるものとなった。
- ・景観計画策定後の新町地区景観形成重点区域内での銀行建築の改修事業で、色彩の調和など

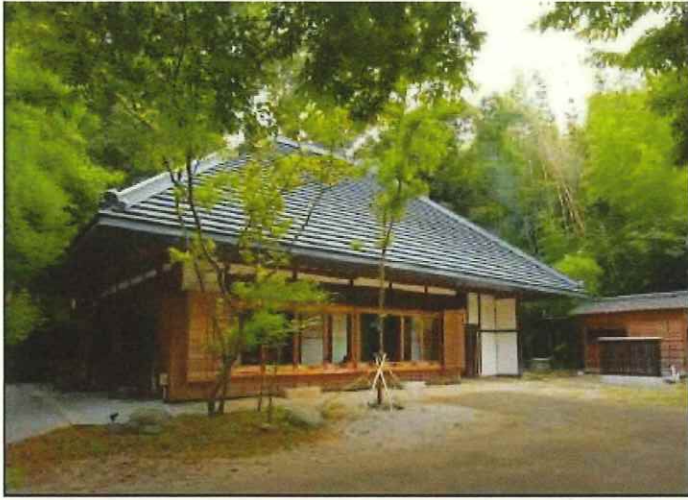
の観点から評価でき、今後の重点区域内での模範事例と捉えることが出来る。

- ・成田街道に面する立地の重要性を考慮し、周辺に残る歴史的な商家とも調和する落ち着いた色彩を用いてリニューアルを行っている。建物の外観や企業ロゴなど、目に見える工夫だけでなく、地域密着型の店舗として、企業のCI(Corporate Identity)よりも街並みとの調和を優先した企業の姿勢も称えたい。
- ・景観形成重点区域内で、既存の建築物を外壁改修により、新町地区が目指すまちなみ形成に大きく貢献した先進性が評価できる。行政やアドバイザーとの協働により、助言を尊重した改修は、建築物自体がまちなみに及ぼす効果のみならずそのプロセスや企業姿勢も併せて敬意を表したい。
- ・建物外壁の色調に落ち着きがあり、城下町新町通りに調和し、歴史的風情を醸し出している。通りに面して設置している植え込みが景観にアクセントを与えている。
- ・新町の景観に合った、落ち着いた色彩となっている。

《より良い景観に向けて》

- ・周囲と調和する落ち着いた建築物と対比し、赤い看板の色彩が違和感を生じさせている。色彩をおさえ、建築物や周辺の街並みに調和させることで、企業イメージのさらなる向上や、周辺の土地所有者に対する影響力は大いに高まると予想され、そうした機会が得られることを期待したい。
- ・建物本体とは別の屋外看板との調和が図られたらより優れた景観を構成すると思われる。
- ・通りに向けた建物のファサード面が大きいので、今後想定される沿道建物の建て替えなどの際にも景観に良い影響を与える事を期待したい。
- ・新町通りでは、昔の木造の商店街の殆どが専用住宅となってアイボリーの外壁建材が目立つようになって来た。これは景観ガイドラインの色彩に外れるものではないながら、多くが建材の質感が考慮されていない為におおよそ歴史的な街並みを連想する事は出来ない。しかし、この改修では景観ガイドラインの色彩を守りつつも外壁の建材の質感を考慮してダークトーンに抑えることで、近代的ビルディングの躯体をおしる歴史的風情を助ける景観に仕上げているところが高く評価できる。通りに向けた建物のファサード面が大きいので、今後想定される沿道建物の建て替えなどの際にも景観に良い影響を与える事を期待したい。

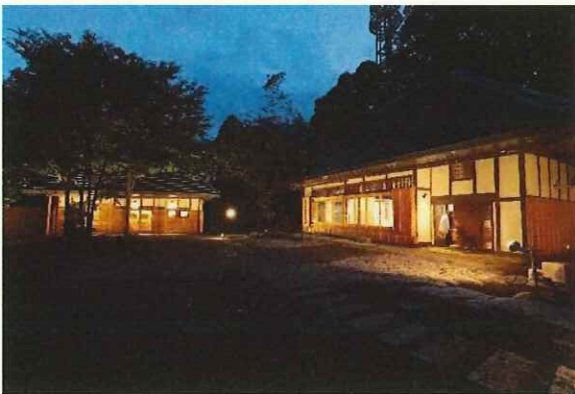
さくらの景観まちづくり賞 活動部門



古き良き趣を残す古民家旅館

「成田さくら邸」

(吉見・古民家再生 旅館)



受賞理由

古民家の再生・活用による多目的スペースの創出や農村景観の質の向上、空き家対策など、多岐にわたり良好な影響を及ぼしている点が評価された。

佐倉市景観審議会からの講評

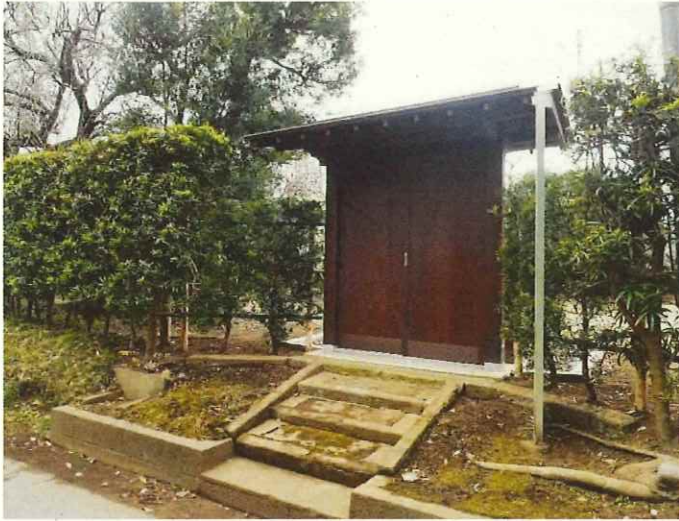
《特に優れているポイントなど》

- ・周囲の屋敷林、竹林と調和した和の空間が再現されている。バーベキューなどの屋外活動のスペースの確保、植栽なども施されながら全体としてまとまりのある景観が形成されている。
- ・吉見の集落内の民家を貸し切り旅館にリノベーションした建築で、周囲の住宅も建て替わる中でこのような保全活用は、佐倉の景観資源の保全活用という観点からも評価できる。また、そうした希少性が出てくる中で、田舎暮らしの体験といった佐倉市内外の多くの人たちにアウトリーチする活動も評価できる。
- ・重厚なかやぶき屋根の古民家を周囲の里山と一体的にリノベーションし、歴史や自然を活かした魅力ある空間として再生している。宿泊施設、レンタルスペースという単体の機能だけでなく、佐倉の歴史、景観を巡る拠点としての波及効果が期待できる。
- ・アクセスに恵まれたとはいえない立地を逆手に取り、古民家の特性を活かした多目的スペースを創り出した点が評価できる。都市部から適度な距離感で、田舎暮らし体験も可能な設備を有しつつ現代的な快適性を担保した施設は、宿泊・レンタルスペースとして利活用されることで、多様な主体の活動や、地域内外の様々な人々の交流を支える場として機能することが期待される。
- ・竹林との調和が優れたリフォーム古民家邸宅である。入口ゲートとその延長の塀が上質な景観を生み出している。
- ・佐倉の農村風景を感じさせる地域の中での古民家再生・活用ということで価値がある。
- ・佐倉市の中でも古い民家が残るエリアの一つである吉見で、古い建物を活用して地域外からの来訪者が利用する施設としているところに佐倉市の観光資源としての価値がある。

《より良い景観に向けて》

- ・周囲から敷地内や古民家を視認することは難しく、知らない人にとっては、看板以外の要素から当該施設をうかがい知ることは出来ない。田園風景に残る古民家が有効活用され新たな価値を生み出す好例となりうる可能性を有する施設であることから、ぜひ施設そのものや、当該施設で模様されるイベント等を通じ積極的に発信して欲しい。市内に多数残存する古民家資源の利活用への波及効果を期待したい。
- ・旧納屋の改装や駐車場、アプローチ道路や遊歩道なども整備されているが、全体として里山の中の古民家の面影がしっかりと継承されている。
- ・外構が整備中だが、広い敷地であり、景観向上の可能性は未知数である。

さくらの景観まちづくり賞 活動部門



落ち着いた重厚な通りの景観を創出

「大聖院 武家屋敷通りの修景活動」

(鎚木町・寺院)



受賞理由

生け垣を残し門を修繕したことにより、歴史的な外構を保全し、武家屋敷通りの景観の一体性の維持に貢献している点が評価された。

佐倉市景観審議会からの講評

《特に優れているポイントなど》

- ・生け垣を存置し武家屋敷から続く緑の連続性や景観の一体性を維持できたのは良かった。門の形状・色彩も、生け垣や武家屋敷の雰囲気と調和のとれたものである。
- ・永い時間をかけて醸成された佇まいは、一度破壊してしまうとすぐに再生することは難しい。本件では、土地利用が変わっても外部空間と接する歴史的な外構を保全し、地域の景観がもつ豊かな佇まいの維持に貢献している。
- ・当該地域の空家・空地対策と既存の門・生垣の保存によるまちなみ保全を両立させた模範的な好例

として評価できる。武家屋敷通りからひよどり坂へ至るアプローチに位置し、生垣が続くまちなみは落ち着いた重厚な通りの景観を創出するとともに、当該地域を散策する際の落ち着いたシークエンス景観に大きく寄与しており、今後、多くの人々の滞留や散策につながることを期待される。

- ・大聖院は宮小路武家屋敷通りの奥にあり、武家屋敷通りとその先にあるひよどり坂の中間にある。この大聖院の脇にある住宅地が取り壊されたおり、生け垣を残し、門を修繕して、武家屋敷通りの景観を保つように努力されたことは、景観まちづくり賞にふさわしいと考える。

その結果、武家屋敷通りからひよどり坂まで一体化し、通りの歴史散策に深みを与えている。

- ・生垣・石壇・門が一連の調和を成しており、佐倉では珍しく歴史的景観が一箇所に纏まった武家屋敷前の通りを支えている景観といえる。既存の景観に誇りをもって歴史的町並みを大切にしている事が伝わり、それを讃えたい。

《より良い景観に向けて》

- ・生垣が駐車場の目隠しになっていることで、大聖院を訪れる車の駐車場誘導が難しい状態である。幟や案内板が落ち着いた通りの景観を阻害することの無いよう、公共サインとの連携など、行政・所有者が協働で通りの景観が維持される展開を期待したい。

・門の脇に設置された看板については、武家屋敷通りの景観にふさわしいものとなるように、色彩や掲出方法などの工夫を期待したい。

- ・宮小路町の武家屋敷通りは佐倉市でも最も観光客が訪れる場所で3棟の武家屋敷と当時のまま残る土塁と生垣、その奥のひよどり坂はサムライ小径と呼ばれ城下町佐倉の景観を最も感じられる地区である。今回の申請は門と周辺の景観とのことだが、門を含む小径としての景観と評価したい。案内ののぼりか目印ののぼりか、設置方法を検討されたらより歴史的景観が向上すると思われる。

さくらの景観まちづくり賞



宗徳寺 あじさい



妙覚寺 さるすべり

四季を彩る花々と、
歴史を今に残す「うすい花の八ヶ寺」



実蔵院 牡丹



円応寺 もみじ

(臼井地区 八つの寺院)



常楽寺 藤



妙傳寺 梅



長源寺 枝垂れ梅



光勝寺 桜

佐倉市景観審議会からの講評

《特に優れているポイントなど》

- 寺院単体ではなく、資源のネットワークとして地域の歴史や季節の自然を感じる景観を創出している。
- 寺院の立地特性から優れた眺望点を内包しているものも多く、印旛沼周辺の風土にまつわる景観を感じる場としても機能している。
- 各寺院の花の演出とともに、高台からの風景など佐倉市の特徴的な景観を伝えるものとなっている。
- 各寺院では様々な季節を感じられ、手入れの行き届いた花々はいずれも地域で愛されている景観となっている。
- 花をめくりながら臼井を散策することができる。
- 平安の太古にスポットを当てて、現存しない当時をしのばせようと、訪れる人の興味をそそるように、花をテーマに維持管理と、情報発信をする活動と、その発想を評価したい。

さくらの景観まちづくり賞



幕末創業 商家の面影を残す

「寺子屋 吉田書店」

(新町・資料展示 学び場)



佐倉市景観審議会からの講評

《特に優れているポイントなど》

- 成田街道に立地している、店蔵づくりの建造物は、地域の歴史を今に伝える景観上重要な建造物といえる。
- お店の前にさりげなく置かれた郵便ポストが建物と調和している。
- 成田街道に面し、細い格子窓、本棚など建具も含め、商店としての店構えがよく保存されている。
- 屋根・外壁など、建物の歴史と景観に配慮した形で修繕されている。
- 重厚な蔵づくり、格子窓、漆喰の壁など当時の店構えを伝えている。
- 地域資料の展示や地域に関する勉強会の場としての活用は、かつての書店、教科書販売所としての建物の履歴を生かすものであり、新町の景観重点地区の歴史的な建築物の保全・活用の好事例の1つといえる。

《その他》

- 平井家住宅など他の建物と連携し、成田街道の景観づくりに力を発揮してほしい。

さくらの景観まちづくり賞



城下町の風情を醸成する町家

食と文化が集う

「茶琴神明 時代カフェ&文化芸術スペース」

(鎗木町・店舗)



佐倉市景観審議会からの講評

《特に優れているポイントなど》

- 歴史的な建築物の活用にあたり、慎重に材料を選定し、歴史的意匠を継承している。
- 新町通りから少し横に入った坂道の古民家カフェは城下町佐倉にピッタリの建物で優れた景観を創出している。
- 佐倉の街並みに一級品の品格を与えてくれる。
- 道路に面した格子窓が横の広がり調和している。
- のれん、行燈の明かりが、生活(お店)の場として暖かさを感じられる。
- 旧城下町歴史景観拠点内に位置し、景観形成重点区域に隣接する本建造物は、建造物の特徴を活かした新しい商活動として注目でき、新町地区の景観まちづくりを進める上で、城下町を印象づける先導的な役割を果たしている。

《その他》

- 新町エリアには街歩き客が地域の歴史を感じながら飲食を楽しむことができる施設が少ない中、ギャラリー兼カフェとして、永く当地に定着することを期待したい。

さくらの景観まちづくり賞



宿場町の面影を残す

酒蔵 「旭鶴」

(馬渡・店舗住宅)



佐倉市景観審議会からの講評

《特に優れているポイントなど》

- ・ 馬渡宿の歴史を今に伝える随一の景観資源であるとともに、現在も酒造を営み積極的な商品・販路開発を行うなど、生きた資源として、歴史的にも、将来的にも地域の景観まちづくりを先導する役割を担っている。
- ・ 宿場町の情景を今に伝える酒蔵は地域の重要な景観資源といえ、これまでの保全行為も非常に評価でき、受賞に値するものであると考えられる。
- ・ ファサードのリニューアルが、景観を壊すことなく継承する方向に発展させているところを高く評価したい。
- ・ 歴史ある佐倉の造り酒屋で白壁と黒板壁の調和が見事。
- ・ 建築物や塀なども丁寧に保全され格調高い造り酒屋の雰囲気を感じる。
- ・ 門前に杉玉を吊り下げ、酒樽を置いて昔の酒造の伝統を守り通している。

《その他》

- ・ アンテナショップを出店するなど、更に、城下町佐倉、新町通りと連携できるとよい。

さくらの景観まちづくり賞 建築物部門



「城下町らしさ」を

受け継ぎ、活かす

(新町・店舗兼住宅)



佐倉市景観審議会からの講評

《特に優れているポイントなど》

- 店舗前面に駐車場スペースを確保する一方で、敷地境界に板塀を設置することにより、城下町で重要となるまち並みの連続性に配慮している。
- 黒を基調とした木材と漆喰風の白い壁とのコントラストが印象的。照明や建物の意匠、植栽など、細かなところにも配慮が感じられるづくり。
- 城下町の町割りの特徴である奥行きのある敷地形状を活用し、店舗空間と居住空間の使い分けが良くできている。
- 歩道そばに花の鉢を設置するなど、歩行者を楽しませようとする工夫もある。

《今後期待されること》

- 門から店舗までの位置が遠いため、植栽や明かりの工夫などでつながりができると、より一層、景観としての一体感が生まれると思われる。
- 城下町のまち並みとしての連続性と、駐車スペースの確保の両立という視点では、道路に面したオープンスペースの利点を活かした様々な活用の可能性を探ることで、さらに生き生きとした景観を創造できる可能性がある。まち並みに配慮された所有者の方の地域への思いをさらに発展的に活かしていけるのではないかとと思う。

さくらの景観まちづくり賞 建築物部門



暮らしの中で育まれる

自然との調和

(寺崎・個人住宅)



佐倉市景観審議会からの講評

《特に優れているポイントなど》

- ・建物・庭園ともに地元産の自然素材にこだわり、素朴で柔らかな雰囲気デザインされている。
- ・背景の山林、前面に視界が開けるというロケーションが建築と外構のデザインに活かされている。透過性がある低い垣根や、玄関のアプローチ、こだわりのあるデザインなどが周囲の景観とよく馴染んでいる。
- ・庭木は、地元の山の落葉樹を中心に季節ごとの変化が楽しめるよう工夫されている。
- ・建築家や造園家の仕事で完結するのではなく、日々手を加えながら生活することで、住んでいる人の思いの積み重ねが景観として現れている。

《今後期待されること》

- ・今後も周囲の景観と調和した雰囲気をつくり続けてほしい。
- ・生活空間と周囲の景観との調和を意識し、暮らしながら良くし続けようとする姿勢を応援したい。
- ・薪ストーブに使用する薪は地元の方とのつながりで入手されているとのこと。地域とのつながりのなかで育まれていくものを今後も大切にしていいただければと思う。

さくらの景観まちづくり賞 建築物部門



田園風景と人との交流から

生み出される風景

(大佐倉・個人住宅 離れ)



佐倉市景観審議会からの講評

《特に優れているポイントなど》

- 建物前面に広がる水田と、その先にある線路からの眺望を意識したと思われる配置。木材を活かしたシンボリックなデザインとなっている。
- 特徴的なデザインながら、採光を考慮した明るい印象で、田園風景との調和を図っている。
- 人が集まる場としても活用されており、建物と人が集う風景がセットとしてイメージできる。

《今後期待されること》

- 現時点では、建物単体の印象が強く残る。今後は、植栽や舗装、敷地境界等を工夫しながら、主屋との連続性や竹林や沿道、水田など周辺との景観的なつながりを醸成していくことが望まれる。
- 活動を継続的に行いながら、地域を巻き込んだ「人の集う風景」として育まれていくことが期待される。

さくらの景観まちづくり賞 建築物部門



古いもの、新しいもの
調和と継承とのバランス

(西御門・個人住宅)



佐倉市景観審議会からの講評

《特に優れているポイントなど》

- 「新と旧」、「和と洋」とが調和した建物と庭園。ともに丁寧に維持管理されている。
- 築90年とされる主屋に台所部分を増築している。新旧建物の接続部分は、地元の大工による施工であり、空間的にも工夫がされている。建物前面のガーデニングでは、農家住宅の和風の植栽に、増築部分を意識した洋風の要素をうまく取り入れることで、建物の接続部分の印象をより自然なものとしている。
- 主屋のほか門や土蔵、庭などが一体的に良い状態で保存されていることで、地域の農村住宅の風景を見ることができる。

《今後期待されること》

- ライフスタイルの変化を受け入れつつ、古いものを引き継いでいく姿勢が素晴らしい。管理が大変かと思われるが、今後も維持、継承されていくことを期待する。

さくらの景観まちづくり賞 活動部門



佐倉城主ゆかりの湧水を
地域で育み、維持し続ける

加賀清水公園の清掃活動
(井野・井野町一区町内会)



佐倉市景観審議会からの講評

《特に優れているポイントなど》

- 加賀清水公園の湧水は、江戸時代に第8代佐倉城主 大久保加賀守忠朝が江戸との往来の際に立ち寄って飲んだといわれ、街道の文化を考える上でも貴重な遺産である。この由緒ある湧水とその周辺全体が非常によく管理されており、特徴的な水辺空間が維持されている。
- 現在の良好な景観は、35年以上にわたる清掃活動を通じて作り出されたもので、その継続性が高く評価される。自然環境や歴史的な資産を継承し、市民が育み維持する景観となっているだけでなく、これらの取り組みを通じ、地域で暮らす人たちが交流する貴重な場を創出している。

《今後期待されること》

- 今後も地域に対する愛着や誇りを醸成する場として、活動が継承されていくことを期待する。
- 若い世代の積極的な参加を得て、次世代につなげるとともに、この活動が基軸となり、地域におけるまちづくり活動に発展することも期待される。

さくらの景観まちづくり賞 活動部門



旧宿場町の歴史的資源を
地域の思いが守り、伝える

下総まわし宿百観音の保全活動
(馬渡・下総またわし宿百観音保存会)



佐倉市景観審議会からの講評

《特に優れているポイントなど》

- ・印旛地方一帯の集落において、出羽三山や三峰信仰などによる石碑や石仏などが建立されたとされるが、当該地のような規模で保全に力を注いでいる所は見当たらない。行政に依存する部分が大きい地域の歴史的資源の保全・管理について、地元主体による継続的な取り組みが行われており、地区のシンボルとなっている。
- ・喪失・損傷していた多くの観音像を修復・復元するだけでなく、周辺の草刈りや清掃を定期的に行い、郷土色豊かな歴史的・文化的な景観を再生・維持していることが高く評価される。暗くなりがちな森の中を整備することにより、明るく見通しがきき、歴史的な雰囲気の中にも親しみやすい景観となっている。

《今後期待されること》

- ・今後も地域の歴史的資源を自分たちで守り、伝えるという活動を継続し、他地区のモデルとなっていくことが望まれる。
- ・ハイキングコースとしての活用も考えられる。地域の歴史をより多くの市民に知っていただく活動に発展することを期待する。

さくらの景観まちづくり賞 活動部門



質の高い住宅地景観を
維持・発展させ続ける地域の力

染井野地区 緑化活動等

(佐倉染井野 S1 地区建築協定運営委員会他)



佐倉市景観審議会からの講評

《特に優れているポイントなど》

- 開発以来20年を経過する中、住民同士の協力のもとで、当初の基本コンセプトを維持している管理水準の高い景観。景観を維持するために日常的にパトロールや啓発活動などの取り組みを行い、協定の実効性を担保する活動を広く組織的に展開することで、発展的に維持・継承されている。
- 活動に関するPR活動にも積極的であり、活動を通じてまちなみの美しさを財産とする価値観が地域の住民に醸成されている。

《今後期待されること》

- 今後、代替わりや相続に伴う課題も発生すると想定されるが、時代の変化に対応しながら発展的に継続していくことを期待する。
- 協定の継続的な更新などに苦勞も多いと思うが、さまざまな取り組みから地域における理解を育んでいっていただけたらと思う。

さくらの景観まちづくり賞 活動部門



市街地近郊に、四季折々の
田園風景を楽しむ空間を創出

稲荷台ビオトープの保全活動
(稲荷台・稲荷台ビオトープの会)



佐倉市景観審議会からの講評

《特に優れているポイントなど》

- 都市化が進んでいる地域において、身近な水辺をビオトープとして保全することで、生物多様性の保全に貢献するとともに、田園風景の四季を楽しむ景観づくりが行われている。
- 継続的に人の手が入ることによって、生物相を保護しながら見た目にも快適なバランスのとれた景観が維持されている。

《今後期待されること》

- 活動が地域の人々の楽しみとして継続するとともに、水路と隣接する雑木林や水田といった田園風景と生態系との一体的な保全の取り組みに発展することを期待する。
- 充実した会報誌の発行など、周知にも工夫が見られる。さらに、より広く市民の方に知っていただく展開などがあると、よりよい活動につながると思われる。